

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

76

発行日：令和4年1月17日(月)
(2022年)

地域企業紹介 No. 76

JET株式会社

「チャレンジブルマインドで 食品産業の発展に貢献」

精密加工・設計開発・ロボット化ビジネスを事業の3本柱とするJET株式会社の代表取締役である遠藤法男社長を相模原市中央区田名の本社工場に訪ねました。

遠藤社長は相模原市下九沢の出身。清新中学から県立相模原高校を経て、専修大学法学部へ進む。高校時代はサッカー部のFW（トップ）として活躍。当時の監督は、現在の神奈川県サッカー協会会長である坂本紀典氏。とても厳しい指導のもと、精神力も鍛えられたそうで、『大抵のことには屈しない根性がついた』と語る。大学時代はテニスに熱中し、その実力はコーチを務めるほどの腕前。人とお酒を飲んだり話したりするのが好きで、あまり勉強はしていなかったのだとか。もともと父の事業を継ぐ気がなかった遠藤社長は金融機関系シンクタンクに就職。様々な情報を多く持つシンクタンクで働くことで自らの成長と社会への貢献を考えていたそうだ。

そんな遠藤社長率いるJETは、昭和58年に父芳雄氏が金属部品加工業として有限会社遠藤製作所を設立したのが始まりだ。創業時から先代と社員3人体制で事業を行ってきたが、突然芳雄氏が病気で倒れてしまう。半年間ほど勤務先と自社経営の掛け持ちをしたが、それにも限界があり経営に専念することを決心する。

経営への専念を決心した1996年は、バブル経済崩壊後の厳しい時代。部品加工業の将来を考え、小さくて精密な分野に特化する方針を打ち出す。社員には材質の耐久性や限界を知ることの重要性を説き、「壊してもいいから、頑張れ」と全社一丸となって取り組んだ。その結果、主要取引先であるハードディスク関連の装置部品受注実績では、僅か5年間で130社中最下位からトップへ大躍進させた。また、事務系社員も図面データを理解し、納期などの社内リソースを管理できることもすごい。『失敗を恐れず果敢にチャレンジする会社として経験を積み重ね、引き出しの量を多くすることが大事』と遠藤社長。精密加工の高い技術力とともに、こうした全社員総動員によるサポート体制も同社の大きな強みだ。

開発設計では、3次元CADなどを活用し、特にビジョンを使った画像認識、精密位置決め処理、高速搬送処理設計などで高い評価を得ている。設計精度を高めることはもちろん、お客様に分かり易く提案するプレゼン力の強化にも努力を怠らない。2007年には社名を変更。Japan Evolution of Technology(ジャパン・エボリューション・

代表取締役	: 遠藤 法男 (えんどう のりお)
所在地	: 神奈川県相模原市中央区田名 3371-27
従業員数	: 21 名
資本金	: 3,000 万円
事業内容	: 精密加工・開発設計・ロボット化ビジネス
URL	: https://www.jet-co.jp/

テクノロジー)の頭文字をとってJET。日本の技術の進歩を具現化できる会社になりたいという熱い思いが込められている。もともとマイクロオーダーの精密加工を得意とする同社は、開発設計分野に加え、ロボット化ビジネス事業も展開している。これまでに、食品・医療・薬品・玩具・半導体・液晶・HD・光学・自動車など幅広い業界にチャレンジしてきた経験を持つ。現在は三品産業(食品・化粧品・医薬品)、特に食品産業の自動化に力を入れる遠藤社長は、労働人口減少とともに厳しい労働環境から日本人従事者が減少することによる“生産現場力”の低下を懸念している。食品産業は生活に直結するため、不安定な景気やコロナ禍でも正確で安定した成果の得られる「ロボット活用」が必要不可欠であり、その入口部分であるシステムの全体像を決める構想設計は極めて重要。これが甘いと全てが上手くいかなくなるのだと言う。2016年には、その分野を専門的に担うため、市内企業である永進テクノ株式会社(代表取締役 鈴木 道雄 氏)との共同出資にて、大野最高技術責任者をはじめとしたトップエンジニアを擁する株式会社トランセンドを設立した。同時にNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)のプロジェクトを通して、独自のビジョンシステムを駆使した「食品工場のコンビニ向け配送仕分けロボット」を共同開発した。数百種類にも及ぶ製品を認識し対応できる優れたシステムだ。

『ロボットシステムインテグレータ(SIer)として、常にユーザーに合わせたベストソリューションを届けていきたい。そして、食品産業において、ロボットを活用した自動化・省人化システムの更なる普及は労働人口の観点からも必須であり、延いては人口減少をたどる日本の生産力をサステナブルにするための一翼となる。今後、ロボット活用を積極的に推進する食品メーカーやそれに携わるロボットSIerがさらに増え、食品業界全体に輝ける未来が訪れることを願っています!』と遠藤社長は今後の展望を語る。

生まれも育ちも相模原という遠藤社長は、相模原市とSICの共催によるロボットSIer養成講座をはじめ、ロボット関連セミナーなどで講師を務める。また、さがみはらロボットビジネス協議会やFA・ロボットシステムインテグレータ協会に所属し、業界の発展にも尽力している。『常に人と人の関係がある。役に立てることがあれば時間の許す限り協力したい』と遠藤社長。ロボットビジネス推進の原動力的存在として、一人勝ちするのではなく、自社の得意分野や強みを活かし、日本のロボット産業振興に大きく貢献している。

「今日限界の120%に到達すれば 明日はそれが100%になり成長につながる」を掲げるJET。新たな年を迎え、今年も常に“チャレンジアブルマインド”で挑む遠藤社長と社員の皆さんに心からエールを贈ります!

入居企業紹介

77

スマート農業を実現する小型多機能ロボット!!

株式会社DONKEY

中小規模農家のためのスマート農業ロボット「DONKEY(ドンキー)」を開発・販売する株式会社DONKEYの山本秀勝社長にお話を伺いました。

DONKEY社は、株式会社日本総合研究所が「農業者みなが儲かる農業“Agriculture 4.0”」を提唱したことを契機に、複数の企業や大学との検討期間を経て、2020年3月に設立されました。SICには、2020年5月より、SIC-1 Startup Lab.に入居しています。

農業分野においては、慢性的な人手不足や高齢化による担い手減少を背景に、ロボットやICTなどの先端技術を活用して省力化・高品質化を図るスマート農業が推進されています。しかしながら、これまでに開発・販売されてきた農業ロボットの多くは、高価で導入コストが高い一方、使用する作業時期以外は倉庫に眠っているケースも少なくありませんでした。

DONKEYは、収穫・除草・施肥・農薬散布・播種といった一連の農作業に対応可能な“小型多機能ロボット”として、中小規模の農家をはじめとした多くの農業者から期待と注目を集めています。

DONKEYの特長として、まずは「高走破性」

が挙げられます。四輪独立モーターを採用し、サスペンション機構をはじめとした自動車技術を搭載することで、荒地や畑など段差の多い環境でも安定した走行が可能です。また、最大積載量は100kgで、傾斜20度まで走行できるなど、非常にパワフルな性能を持っています。それでいて最小回転半径650mmと小回りが利くため、中小農家にとっては使い勝手の良さも魅力の一つです。

次に挙げられるのが、「多機能性」です。リモコンを用いた遠隔操作だけでなく、自動追従など多様な操作方法が用意されています。自動追従は、前後のカメラで農業者の位置を認識し、一定距離の感覚を保ちながら農業者を自動で追従するものです。また、アタッチメントによる機能拡張によって、農作業の対応範囲を運搬作業以外の一連の作業に広げることができます。例えば、防除タンクアタッチメントを用いて農薬を散布するための機能を持たせることもできます。この多機能性が、農作業の負担軽減と費用対効果の向上に大きく寄与します。

そして、スマート農業実現の肝となる「データ収集」も見逃せません。ロボットの位置情報や収穫量などを計測してクラウド上に蓄積

し、そのデータを活用・解析することによって、高度な農業経営も可能になるように目指しています。

同社は、農業Weekといった展示会にも積極的に出展して製品PRに取り組んでいるほか、これまでにさまざまなテレビ番組や新聞などのメディアにも取り上げられてきました。すでに2021年7月から試験販売を開始しており、現在は量産販売に向けた準備を進めています。

「みんなができる×もうかるスマート農業」をコンセプトに掲げる同社では、小型多機能ロボット「DONKEY」を通して、中小規模農家の課題解決に貢献していきます。



DONKEY

株式会社 DONKEY
SIC-1 Startup Lab. 1103 号室
<https://www.donkey.co.jp/>



WEB サイトでは DONKEY
が実際に走行する動画を
ご覧いただけます

謹賀新年

皆様におかれましては、つつがなく良き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、長引く新型コロナウイルス感染症の流行により、度重なる緊急事態宣言の発出など地域経済や市民生活に大きな影響を及ぼした一年でした。各企業の皆様におかれましては、半導体不足や原材料・原油価格高騰などの影響がある中、感染拡大防止対策はもちろん、新たな商品開発や営業スキーム改善などの事業再構築に向けた弛まぬ企業努力によって、この苦境を乗り越えてこられたのではないのでしょうか。そのような中、今年も昨年末から増加傾向にあるオミクロン株の感染状況が世界経済に大きな影響を及ぼすのではないかと予断を許さない状況が続いています。新型コロナウイルス感染症の流行から3年目となる今年は、どんな状況でも安定的に成長していくための経営再構築に向けた取り組みがより一層重要になってまいります。そして、それを推し進める上では強い組織力が必要です。社長や社長の右腕となるマネジメント人材が確固たる信念に基づく強いリーダーシップで、働き甲斐と活力のある組織へと導いていく。まさに“企業は人なり”と言われる通り、働く人のモチベーションアップをベースとした組織力アップは、苦境を乗り越え、さらなる成長を目指す企業にとってはとても重要なことだと言えるでしょう。

新一万円札の顔、日本の資本主義の父として有名な渋沢栄一氏は「限りない資本を活用する資格は“信用”である」。また「信用は確固たる“信念”から生まれる」と言っています。著書である「論語と算盤」では「利益と道徳」を調和させるバランス感覚を独自の経営哲学として説いています。企業の成長は先端技術や優れた開発力とともに人として揺るぎない道徳心や信念から信用が生まれ成長につながるのだということでしょう。

2022年、お陰様でさがみはら産業創造センターは24期目を迎えます。これまで培ってきたビジネス・インキュベータとしての経験やノウハウを活かし、スタートアップや起業家が不安なく創業でき、着実に成長できるような支援策を実施してまいります。特にスタートアップや挑戦する企業に向けた「EN-Garage」は、シェアするオフィス&ラボとして、相模原から始まるイノベーションの発信地となり、多くのビジネスが生み出されることを目指しています。また、相模原市からの受託事業であるロボット導入支援センター事業やデジタルツイン技術を活用した活動、企業の生産性向上や人材採用育成支援事業にも取り組んでまいります。さらに連携する大学・BI・支援機関との協業による支援活動を通じて、企業の採用支援や大学発ベンチャー企業による新事業及び雇用創出などにも挑戦してまいります。このような支援事業を常駐するプロパーのインキュベーション・マネージャー（IM）が中心となって、各種コンサルタント・弁護士・公認会計士・弁理士などの専門家の方々と共に持続的かつ実効性ある伴走支援に取り組んでまいりたいと考えております。

結びにあたり、新しい年が地域企業の皆様にとりまして、コロナ禍を克服し成長と発展の年となりますことを心より祈念申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

株式会社 さがみはら産業創造センター

代表取締役 **橋元雅敏**



SOLEADO

JR矢部駅南口より徒歩3分の「SOLEADO（ソレアド）」を訪問しました。30年前にオープンしたスペイン料理のお店で、店名はスペイン語「Sol（太陽）」の派生語で「日当たりの良い場所」という意味です。

本場スペインのコンクールに出場した店長の三上さんが作るパエリアは絶品でした。「日本人とスペイン人は味覚が似ており、日本人にも味が受け入れられているのではないのでしょうか」と三上さんはおっしゃっています。また、店内には常設の舞台があり、今年から毎月開催していたフラメンコショーが復活します。お食事（宴会・貸切）やショーは電話での予約も可能です。

相模原で味わえる情熱のスペイン料理。30年前から変わらない味のパエリアを楽しんでみてはいかがでしょうか？ごちそうさまでした！（大谷）



お店で一番人気の魚介類のパエリア



今が旬の牡蠣のアヒージョ

所在地 神奈川県相模原市中央区矢部3-5-7
営業時間 火～土曜日11:00～14:00/17:00～22:00
日曜日・祝日12:00～15:00/17:00～21:00
定休日 月曜日・第3火曜日（月曜が祝日の場合は翌日）
TEL 042-752-3513
URL <https://www.soleado.co.jp/>



店長の三上さん



SIC × 中小機構（中小企業大学校 サテライト・ゼミ）

「マネジメント人材の育成と組織力強化の進め方

～理念・方向性を共有して会社の発展に貢献する人材を育成する～

<こんな方におすすめ！>

- (1) 自分一人に依存した経営から脱却し、開発・製造現場を任せられる「マネジメント人材」を育てたい。
- (2) 開発・製造業務において、工数管理や原価管理、納期管理などに起因する諸問題を解決していきたい。
- (3) マネジメント人材の評価・選任・育成のポイントや、制度・仕組み作りなどについて理解を深めたい。
- (4) 将来的な組織拡大を見据えて、今のうちから「人材育成」や「組織づくり」について考えておきたい。

<カリキュラム>

2月9日（水） 15時～19時10分	マネジメント人材の必要性・重要性 「参画型経営の実践」 組織の理念・方向性の明確化 「ストーリーテリングによる想いの発露」
2月16日（水） 15時～19時	マネジメント人材の発掘・育成のしくみづくり 「マネジメント人材の計画的育成」
3月2日（水） 15時～19時	マネジメント人材の評価・育成策 「制度やしくみの構築：ハード面」 働きがいのある職場の作り方 「エンゲージメント向上：ソフト面」
3月16日（水） 15時～19時10分	トップによる人材育成のポイント（理論・実践）

<開催概要>

【講 師】	東京保健医療専門職大学 教授 事業構想大学院大学 客員教授 片岡 幸彦 氏
【日 時】	令和4年2月9日（水）～3月16日（水）全4回
【会 場】	サン・エールさがみはら 第1研修室
【定 員】	15名
【参加費】	25,000円（税込）
【申込方法】	FAX または WEB サイトより
【問い合わせ】	事業創造部 樽川



WEBはこちら

JOB MEETS
就活生と企業の交流

サガツクナビ JOB MEETS 26th 「地元企業研究セミナー」



【日 時】	令和4年2月22日（火）13時30分～17時15分
【会 場】	相模原市立青少年学習センター ホール
【内 容】	(1) 参加企業紹介 (2) 個別企業説明&質疑応答 (3) その他
【問い合わせ】	事業創造部 上野

WEBはこちら



【申込方法】 必要事項をご記入のうえ、
電子メールにてお申し込みください。

(1) 件名
JM26th 『地元企業研究セミナー』 参加申し込み

(2) 本文
企業名、担当者の所属・役職・氏名・ふりがな
電話番号、メールアドレス
送付先：sagatukunavi@sic-sagamihara.jp

2022.1～2 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

令和4年2月9日（水）	マネジメント人材の育成と組織力強化の進め方 開講（全4回）
令和4年2月22日（火）	サガツクナビ JOB MEETS 26th 「地元企業研究セミナー」

SIC空室情報（令和4年1月17日 現在）※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税込)
SIC-1 Startup Lab.	○セミラボB (31.5㎡)	1 108,240円
	○スモールオフィスA (23.6㎡)	1※1 86,570円
SIC-2 Creation Lab.	○オフィス (50.2㎡)	1※2 189,970円

※1 令和4年2月より入居可能 ※2 令和4年4月より入居可能

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

編集後記

「日本の技術進歩を具現化できる会社」を目指し、15年前に社名を変更したJET。これまでに経済産業省「はばたく中小企業・小規模事業者300社(2017年度)」や「九都府市のきらりと光る産業技術(2018年度)」で表彰されるなど、社名に込めた目標を実現して高い評価を受けてこられました。皆様の社名や経営理念には、どんな夢や思いが込められていますか？



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>